

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	高知県立大学	申請大学長名	南 裕子
申請類型	複合領域型(安全安心)	プログラム責任者名	野嶋 佐由美
整理番号	M02	プログラムコーディネーター名	山田 覚
プログラム名	災害看護グローバルリーダー養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムの目的は、他の近接学問と相互に関連・連携しつつ、学術の理論および応用について産学官を視野に入れた研究を行い、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄与することである。また、その目標は、日本ならびに世界で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる高度な実践能力かつ研究能力を兼ね備え、国際的・学際的指導力を発揮するグローバルリーダーを養成することである。

本プログラムの特徴は、5 大学院の蓄積してきた資源を共有し、各大学院研究科に共同災害看護学専攻という共同教育課程を設置し、「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム」を策定し、共同責任体制で一貫した教育を行いつつ、各大学院はそれぞれの特色をさらに強化していくこと、および国内外とのインターンシップの実施やモデル事業提案を義務づけることである。

本プログラムによる大学院教育改革は、個々の大学院教育が向上することに加えて、本プログラムがモデルとなり、その成果をその他の大学院と広く共有することで、我が国全体の博士課程の教育の質の向上に繋がる。さらに大学院博士課程における災害看護領域の教育モデルを世界に向けて発信することになり、災害多発国日本が全世界に対して先導しうる役割の一助を担うことになる。

## 2. プログラムの進捗状況

本年度は、6月に設置の届出・報告を行うとともに、具体的な事業活動として、以下の8つを計画した。1) 共同災害看護学教育課程および教員組織を編成し、設置届出・設置報告をするとともに、学長会議、DNGLプログラム管理運営会議、教育課程連絡協議会を開催し、教育課程の開講準備を行う。2) 平成25年度中に入学試験を行い、平成26年4月に教育課程が開講できるように定員の学生数を確保する。3) 遠隔授業が可能となるよう、Learning Management System (以下、「LMS」という) および周辺システムを導入し、遠隔授業を試験的に実施する。4) 災害看護シミュレーションラボセンター (以下「ラボ」という) を準備し、学生のための教育環境の整備と教育方法の開発を行う。5) 国際的なネットワークの構築・拡大と海外との教育研究連携体制作りの準備を行う。6) 国内外の産官学連携を深め、各大学で遠隔授業、学際的教育を実験的に実施し、災害看護教育に関する教育研究環境の準備を行う。7) 第三者評価委員会を立ち上げる準備を行う。8) 災害看護学の普及と構成大学の共通理解・共同連携の促進のための公開講座やセミナーを開催する。

### 1) 5大学共同教育課程「共同災害看護学専攻」の設置認可と開講準備

共同災害看護学教育課程のカリキュラムの策定および5大学15名の専任教員、25名の兼任教員からなる教員組織を確定して高知県立大学、兵庫県立大学、日本赤十字看護大学は設置の届け出を行い、認可され、千葉大学、東京医科歯科大学は設置報告を行った。それとともに5大学学長会議のもとにDNGLプログラム管理運営会議、教育課程連絡協議会、研究教育開発委員会を組織し共同教育課程の開講の準備を行った。また、「プログラム管理センター」(以下、「センター」という)を高知県立大学内に置き、5大学のプログラム担当者と事務局と密に連携することで、プログラムの全体的な管理運営と共同教育課程開講準備のための作業を効果的・発展的に実施することができた。

「5大学学長会議」は、平成25年4月に、共同災害看護学専攻の設置に関する協定書を締結し、平成26年4月に「共同災害看護学専攻」を開講するために協力することを決定した。7月22日には、霞が関コモンゲート内において、5大学長による共同記者発表を実施し、当プログラムの構想を広く広報した。当記者発表は、ユーストリームにより世界にむけてライブ配信を行った。記者発表では5大学それぞれのコミットメントが明確になり、本プログラムの安定した運営と将来のさらなる発展が確認された。

「DNGLプログラム管理運営会議」は、申請大学長および各大学の責任者で構成し、毎月1回、直接対面あるいはTV会議にて開催し、教員組織や予算などを含めたプログラム全体の円滑な運営の責任を担った。

また、DNGLプログラム管理運営会議の下に「共同教育課程連絡協議会」を置き、共同災害看護学専攻の専任教員と事務局の教務担当者により、毎月1回、直接対面あるいはTV会議にて開催し、教育の質の保証のためにカリキュラム及び教員組織について検討を行い、共同教育課程の設置届け出を行った。設置届出が認められた後は、教育課程の運営について具体的に検討し、授業科目、入学試験、学生の福利厚生などを検討し、学生用に「履修の手引」「平成26年度開講科目シラバス」「安全管理の考え方」を作成して教育課程の開講の準備をした。

### 2) 平成26年度入学試験の実施

DNGLプログラム管理運営会議、教育課程連絡協議会において、共同災害看護学専攻としてアドミッションポリシーおよび入試に関する基本的な方針について共通することを確認した上で、5大学がそれぞれ募集要項を作成して入試を実施した。高知県立大学では平成25年12月1日に第一次学生募集の試験を、平成26年3月13日に二次学生募集の試験を、計3名の受験生を迎えて実施し、2名を合格とした。兵庫県立大学では平成25年12月19日に受験者4名で入学試験を実施し、2名を合格とした。千葉大学では、平成25年12月14日に受験者6名で入学試験を実施し、2名を合格とした。東京医科歯科大学では、平成25年12月13日に志願者数8名、受験者7名で入学試験を実施し、3名を合格とした。日本赤十字看護大学では、平成25年11月16日に受験者3名で入学試験を実施し、2名を合格とした。

その結果、高知県立大学2名、兵庫県立大学2名、千葉大学2名、東京医科歯科大学3名、日本赤十字看護大学2名の合計11名の入学者を決定することができた。

### 3) Learning Management System (LMS) および周辺システムの導入と遠隔授業の試行

①遠隔授業が可能となるよう、LMS および周辺システムを導入するとともに、共同のサーバを構築し、5 大学を結ぶ専用ネットワーク回線を整備した。各大学にて LMS の構築に必要な技術者を 5 大学が雇用し、遠隔授業開発プロジェクトを本格的に稼働させ、本共同教育課程のカリキュラム用に LMS をデザインしカスタマイズを行ってきた。遠隔授業の方法を開発するとともに、具体的に遠隔授業を実施し、検証を繰り返した。安定した遠隔授業を保証するため、遠隔授業の主環境となる専用回線による TV 会議システムの導入を全ての大学で完了した。TV 会議システムに障害が発生した場合の代替システムとして、インターネットを用いた会議システムを導入した。更に、これら 2 つの TV 会議システムに障害が生じた場合のバックアップとして、多地点電話会議システムを導入した。また、「学習者と教材」および「学習者の進捗状況」の管理を行うための LMS を導入し、本プログラムに適応したシステム構築を行った。本共同教育課程のカリキュラムに対応するようにカスタマイズを行い、具体的に各科目の教材等をシステムに作り込んだ。システムを効果的に利用できるように、各大学の教員を対象として、TV 会議システムおよび LMS に関して集合研修を 3 回開催し、LMS が具体的に稼働するようになってから、それぞれの大学からネットワークを通してシステム利用に関する研修をした。その後は各大学の技術者を中心に LMS の利用についてオリエンテーションを行い、これらに伴い、学生用のマニュアル、教員用のマニュアル、そして技術者用の詳細マニュアルを作成した。その結果、1 年次の開講科目について安定したシステムを構築することができた。

②5 大学をネットワークで繋げて模擬授業を行い、遠隔授業を効果的に行う上での課題を抽出し改善方法の共有を行った。災害看護学研究に関する教育方法を学際的な視点を持って検討し、オンライン教育用のコンテンツ作成を開始した。開発したコンテンツを用いて、5 大学の TV 会議システムや情報ネットワークを活用して、遠隔授業・セミナーを実験的に試み、改善を繰り返した。講演会を含む模擬的な授業は、危機管理、米国における遠隔授業、東日本大震災の支援活動、被災地支援の課題とコーディネート機能、防災と減災、などテーマは多岐に渡り、危機管理 7 回、遠隔授業 2 回、自然災害 5 回、東日本大震災を含む被災地支援 10 回、海外災害研修報告 1 回、シミュレーション 1 回、知的財産 1 回、産官学連携 1 回、ICT 活用 1 回、の計 29 回開催した。

### 4) 災害看護シミュレーションラボセンターの機能強化と教育コンテンツの開発

「災害看護シミュレーションラボセンター（以下、「ラボ」という）」の機能強化と、教育コンテンツと教育方法の開発を実施した。兵庫県立大学地域ケア開発研究所内のラボに設置するシミュレーターならびに周辺教育機材の購入等の整備及び技術スタッフ・特任教員を採用（2名）した。遠隔シミュレーション環境である SimView 等の周辺システムの設置、学際的実験教育の実施準備を行った。プロジェクト班の中にワーキンググループを設け、各大学およびラボで開発した教育コンテンツを具体的に共有するための方法、遠隔シミュレーション実施に向けた課題の明確化と具体的対策等を検討すると共に、シミュレーション教育の試行と遠隔シミュレーションのテスト等を実施した。

さらに、シミュレーション教育の研究・開発・実践の世界的なそして先駆的な琉球大学「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」、ハワイ大学「SimTiki」、岡山大学「地域医療人育成センターおかやま」を視察し示唆を得た。シミュレーション教育コンテンツの開発では、コンピュータを用いた災害後の中長期の個と集団を対象とした健康課題の査定と、看護介入のためのプログラムを開発すると共に、人型シミュレーターを用いる教育用のシナリオを作成した。シナリオ作成に関しては、マイアミ大学ゴードンセンターから Dr. Matora を招聘し教育セミナーとコンサルテーションを実施した。さらにシナリオ共有のために「Moodle」を活用した仕組みを整えた。

各大学においても、シミュレーション環境の整備およびコンテンツ開発が同様に進められた。特記事項としては、日本赤十字看護大学では映像教材の作成及び共同エマルゴトレーニングの研修を開催した。大震災が起こった時にリーダーはどのように行動すべきか、という視点で、東日本大震災発生当時活躍したトップリーダー 3 名の証言による DVD 教材を製作した。また、グローバルリーダー育成の観点から、2017 年以降の教材として、フィリピン中部台風（ハイエン）緊急救援やアフガニスタン紛争犠牲者支援、ルワンダ難民支援の実際から学ぶための教材も準備している。東京医科歯科大学においては、ハワイ大学医学部で開催された FunSim-D へ参加し、シミュレーションシナリオを開発し、シナリオを用いた実験的授業や災害医療シミュレーション・セミナーを開催した。千葉大学では災害時専門職連携机上シミュレーションの開発、ハワイ大学医学部で開催された FunSim-D へ参加し、シミュレーションシナリオの開発の技術を習得した。高知県立大学では先進的な遠隔シミュレーションを実施する呉医療センターの研修に参加し、遠隔シミュレーションの展開方法を習得

し、試験的な遠隔シミュレーションを実施した。各大学で開催された研修、実験的シミュレーションには、他大学のプロジェクトメンバーも現地および遠隔システムを用いて参加し、共同によりシミュレーションコンテンツおよび教育システムの開発を進めた。兵庫県立大学では、災害後の健康状態の把握のための人型シミュレーターを用いた教材作成、災害後の中・長期的な健康査定に向けた個と集団を対象とした教材作成、フィリピン台風ハイエンを題材とした情報収集と査定能力強化の教材作成などに取り組んだ。

#### 5) 国際的なネットワークの構築・拡大と海外との教育研究連携体制作り

全体企画としての国際セミナーは2回開催した。第1回目は災害看護におけるグローバルリーダーを養成する上で根幹となる「災害看護における倫理的課題：災害時の倫理と看護実践」(Ethical Issues of Disaster Nursing: Ethics Knowledge and Practice for Nurses in Times of Disaster)をテーマとして平成25年6月15日、Dr. Anne Davis (カリフォルニア大学サンフランシスコ校名誉教授)とDr. Samantha Pang (香港理工大学看護学部教授)を招き、150名の参加を得て実施した。第2回目は、「災害看護におけるグローバルリーダーとは？」をテーマにDr. Miriam Hirschfeld (元WHO Chief Nurse Scientist)、Dr. Judith Oulton (元国際看護師協会事務局長)、南裕子 (高知県立大学学長)を講師に迎え実施した。臨床、大学その他保健医療関係者、115名の参加があり、セミナーテーマの探求に加えて、DNGL事業のPRと推進を行うことができた。

教育研究連携体制作りの準備の一環として、国際的活動をする学生の準備性をいかに整えていくかを検討した。とくに語学力のCompetencyをどのように定め、それを学生が達成していく事をどのように支えるのかに関する方略を検討した。

国際会議の誘致については、9月にタイで開催されたAPEDNN会議において、同会議のH26年の招致を諮ったが、経済的・物理的理由により、中国武漢での開催が参加者によって決定された。4月29日～5月5日のバングラディッシュ視察、5月16～18日の国際看護師協会(ICN)4年毎大会、WHO看護グローバルネットワーク会議などの国際会議への参加などを通し、アジア地域における災害看護教育についてDNGL事業の紹介を進め、将来的な留学、交流について検討する場を持った。

#### ●雑誌 HEDN

災害看護に関する情報や本事業の活動報告発信のために国際学術雑誌を立ち上げ、創刊記念セミナーを開催した。災害看護に関するエビデンスの構築、情報発信、災害看護研究の公表支援、本事業の活動報告発信を目的として、英文ONLINEジャーナルHealth Emergency and Disaster Nursing (<https://hedn.jp/>)を立ち上げた。国際的に活躍する災害看護研究者Dr. Barbra Wall (University of Pennsylvania School of Nursing)を編集長に迎え、南米、北米、アジア、オセアニアから編集者を募り、また各大学からも編集者を募り、国際学術交流を実施している。優れた研究者らに査読を依頼し、学生や研究者らが、英語論文を書き公表する支援を行っている。平成25年度においては、平成26年2月16日に、第1回編集会議および災害看護国際学術雑誌創刊セミナーを開催した。災害看護国際学術雑誌創刊セミナーにおいては、南裕子学長 (DNGL申請責任大学学長)による講演、HEDN編集長であるDr. Barbra Wallによる講演、そして論文発表を支援するためのセミナーが深堀浩樹氏 (東京医科歯科大学総合保健看護学専攻)によって実施された。セミナーには85名の参加があり、災害看護に関する情報共有が活発になされ、本事業のこれまでの活動と今後の計画を参加者にアピールする場ともなった。

#### 6) 国内外の産官学連携体制の整備と災害看護教育に関する教育研究環境の整備

国内外の産官学連携を深め、学際的なネットワークを強化し、連携した学際的な教育・研究プログラムを開発している。さらに、各大学にて、共同研究環境を整え、研究のインターンの準備を行った。

##### (1) 東京医科歯科大学；産官学連携

産官学連携を深めるために教育、研究の2側面から取り組んだ。教育としては様々な分野の講師を招聘した3回の学際セミナーを開催した。学際連携Project (以下、「PT」という)として、経営学修士を取得している医師と、米国で看護管理学修士を取得し、現在米国の大学病院にて Information and

Communication Technology を活用した医療の質向上・改善活動に従事している看護職によるセミナーを実施した（合計 4 回）。学際連携セミナー「トリアージ仕事術」、「ペンシルバニア大学病院における災害対応の実際」、「ペンシルバニア大学病院における Information Analyst の役割」を開催し、産官学連携を深める目的に沿い、看護系大学院生、教職員のみならず、会社員など様々な分野から多くの参加者があった。研究側面から文京区内全診療所、訪問看護ステーションに対し、アンケート調査を行った。研究の過程で実施した文献検討の結果を平成 26 年 2 月に行われた 17th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) で発表した。

#### (2) 高知県立大学

南海地震や高知県下で発生する広域的自然災害において、地域で活動する「地域災害支援ナース」の育成研修を高知県看護協会と協働で5回実施し、南海トラフ地震時の看護活動に活かす連携／学生の研究・教育フィールドの確保を行った。学際的交流・教育を行う研究拠点を形成・整備するために福島県での調査に継続的にかかわり、被災地との連携を強化した。さらに民間企業と連携し企業との連携構築とインターンシップの基盤整備を行った。またグローバルな視点、多様な文化における看護のあり方を養うこと、国際的な研修に関する知見を得ることを目指して大学院学生 1 名のコンゴ共和国でのインターンシップを6日間試行し、危機管理マニュアルを完成させるとともに海外でのネットワーク構築をはかった。

#### (3) 兵庫県立大学

平成25年度は①複雑な状況の中での介入成果の評価をテーマに第1部：複雑な現実世界の実証研究の課題とその解決策を探る、第2部：療養参加とアウトカムの関連を調べるための最新研究法についてProf. Ivo Abrahamを招きセミナーを開いた。②災害復興制度と連携をテーマに第1部：災害復興に必要な制度と考え方、第2部：災害復興支援の現状と課題について山中茂樹先生（関西学院大学 災害復興制度研究所）を講師に招きセミナーを開催した。③災害制度復興への参画、④明石市望海地区を中心とした地域連携インターンシップフィールドの開拓を行った。

#### (4) 日本赤十字看護大学

「災害支援活動における各職種間の連携、その実際と課題」をテーマとするシンポジウムを開催し、参加者は 174 名であった。また、東北被災地との連携やフィールド開拓に関連し、原発事故で福島県いわき市に避難した浪江町民の健康調査・支援事業を平成 24 年度から継続して行い、行政や住民等との協議を進めた。さらに、被災しながらも救援活動を行った石巻赤十字看護専門学校とも意見交換会を行い、災害時における看護系の教育機関のあり方について協議した。また、10 年来継続している本学と地域住民、武蔵野市行政との官学民連携で協働している地域防災活動ネットワーク主催の防災セミナー10回を開催し、年間約 500 人の参加があった。

#### (5) 千葉大学

産官学連携、学際連携、東北等被災地との連携の各観点から、公開講座を開催し、学際的なネットワークを形成した。また教育目標を踏まえながらインターンシップ候補先のリストアップを行い、現場を訪問しての活動への一部参加、本学の産官学推進部門が企画するセミナーに参加しての災害看護から発信できるシーズ提供など、産官学の関係構築を精力的に行った。数か所のインターンシップ候補先において、共同研究等の取り組みへと繋げるべく今後計画を進めている。TV会議システムを活用して、災害を知る（地理学）、環境と衛生（昆虫衛生学）、災害時の歯科衛生、災害時の物流・ロジスティックス、被災地でのスピリチュアルケア（宗教家によるアプローチ）、災害時の行政の役割、米国におけるハリケーンカトリーナ後のPTSD、航空自衛隊・陸上自衛隊の災害時対応等セミナーを開催した。また、福島県いわき市・ときわ会グループとの連携として、看護職と共同での災害時の透析患者の避難や健康への影響に関する研究、いわき市の現任教員・潜在看護師への支援を行った。その他、陸前高田市役所、地域子育て支援センターにおける母子への支援、現地でフラワーアレンジメント教室を開催し、被災地域との連携を強化した。千葉県旭市保健所との連携として、千葉県内の被災地である旭市の保健師活動の支援に着手している。千葉大学で実施された産官学連携イノベーションフォーラムにて災害看護の発表を行った結果、県内の美容器具等制作企業より協力の申し出があり、今

後、災害時の女性を対象とした美容グッズに関する共同研究に発展させていく予定である。

#### 7) 第三者評価委員会の準備

平成 25 年度には現地視察が行われ、次回の視察が平成 27 年度に予定されていることから、第三者評価委員会は平成 26 年度の開催を目指して、準備を進めた。評価対象は、学修成果、教育課程連絡協議会、研究教育開発委員会の活動、本プログラムに属している教員の活動とし、実践、教育、研究、学際性、国際性などの視点や、プログラムの達成度など、複数の次元を複数の視点から評価する。教育課程連絡協議会、研究教育開発委員会、DNGL プログラム管理運営会議、センター、ラボが自己点検・評価を行い、自己点検評価報告書を作成する。

委員は、外部の学識経験者、外国人を含めたメンバーで構成した。第三者評価委員会の結果は、自己点検・評価委員会にフィードバックされ、PDCA サイクルにより改善強化に繋げていく体制とした。

#### 8) 災害看護学の普及と構成大学の共通理解・共同連携の促進のための公開講座や国際セミナー等開催

##### (1) 共同企画・運営

- ・災害看護における倫理的課題：災害時の倫理と看護実践、国際セミナー、平成 25 年 6 月
- ・日本災害看護学会第 15 回年次大会、プロモーション活動、平成 25 年 8 月
- ・災害看護におけるグローバルリーダーとは？、国際セミナー、平成 25 年 11 月
- ・グローバル社会に求められる災害看護のリーダーとは、日本看護科学学会交流集会、平成 25 年 12 月
- ・災害看護国際学術雑誌創刊セミナー、平成 26 年 2 月
- ・18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)、於フィリピン、プロモーション活動、平成 26 年 2 月

##### (2) 高知県立大学企画・運営

- ・遠隔授業のトライアンドエラー、公開セミナー、平成25年6月
- ・子どもへの災害に対する備え、公開講座、平成25年7月
- ・大規模な被災者の収容と管理を考える演習HUG訓練ー学校を避難所に見てー、公開セミナー、平成25年9月
- ・グローバル社会と健康危機、国際セミナー、平成25年11月
- ・チリ地震の経験と教訓から学ぶ、国際公開講座、平成25年12月
- ・災害における社会福祉の役割、学際セミナー公開セミナー、平成25年12月
- ・ICT活用による地域活性化と課題解決、公開講座、平成26年2月
- ・Overview on Organization, Management and Health Issues in Disaster sites: Case of UN-HCR projects、国際公開講座、平成26年2月
- ・東日本大震災から学ぶ：災害に強いまちづくりとは、公開講座、平成26年2月
- ・グローバル化と韓国における看護学博士課程教育、国際セミナー、平成26年3月

##### (3) 兵庫県立大学企画・運営

- ・災害看護における倫理的課題：災害時の倫理と看護実践、第1回国際セミナー、平成25年6月 ※兵庫・高知が共同で企画運営
- ・複雑な社会・健康現象に挑む研究法、学際セミナー、平成25年6月
- ・教育セミナー：シミュレーション教育のためのシナリオ作成、シミュレーション開発PTセミナー、平成25年8月
- ・災害復興制度と連携、産官学セミナー、平成25年9月

- ・災害看護におけるグローバルリーダーとは？（プログラム関係者会議）、平成25年11月（非公開）
- ・歴史から考える災害看護の展望、国際セミナー、平成26年2月

(4) 千葉大学企画・運営

- ・「災害時における危機管理」「災害を知る」教育セミナー（延べ12回）、平成25年5月～平成26年3月
- ・災害時における多職種間連携に関わる教育セミナー（延べ11回）、平成25年7月～平成26年1月
- ・Experiencing Distance Learning at The University of Alabama Capstone College of Nursing、平成25年7月
- ・「災害看護を学ぼう」公開セミナー（延べ2回）、平成25年10月
- ・共同災害看護学専攻キックオフ・セミナー（記念講演、パネルディスカッション、個別進学相談）、平成26年2月

(5) 東京医科歯科大学企画・運営

- ・トリアージ仕事術、学際連携セミナー、平成25年12月
- ・自然災害：子どものトラウマのアセスメントと治療、国際セミナー、平成26年1月
- ・ペンシルバニア大学病院における災害対応の実際、学際セミナー、平成26年1月
- ・ペンシルバニア大学病院におけるInformation Analystの役割、学際セミナー、平成26年2月
- ・生活の立て直しに向き合う支援—長期的視点に立ったこころのケアと暮らしの見守り—、東北連携・公開セミナー、平成26年2月

(6) 日本赤十字看護大学企画・運営

- ・災害看護グローバルリーダーに期待されること、国際セミナー、平成25年10月
- ・赤十字の救援活動の取り組みと今後の課題、産官学セミナー、平成25年11月
- ・災害支援活動における各職種間の連携、その実際と課題—被災者中心の連携はどうあるべきか—、産官学セミナー、平成25年12月
- ・災害看護グローバルリーダー養成と大学の役割・課題、国際セミナー、平成26年1月
- ・災害発生時における病院各部署及び地域災害対策本部の対応と連携、共同エマルゴトレーニング、シミュレーションラボセミナー、平成26年2月